

けいじばん

○次回活動日のご案内；11月13日日曜日、9時40分森林館駐車場集合、主な活動メニュー・12月活動日の伐採計画（選木）・野生きのこ・栽培きのこ調査・植物調査など。

○12月活動&忘年会のご案内；12月の活動日は3日（土）4日（日）、主な活動メニューは巨木林整備、きのこ調査、作業安全マニュアル復習、伐採実習など。12月3日（土）18時から国民宿舎「清和」で忘年会を予定しています。会費宿泊費込み約1万円、宿泊無し約5千円。参加申込は11月13日迄に上記Eメール又は電話宛連絡下さい。11月活動日にも受付けます。年に一度の親睦行事です、奮ってご参加下さい。

かつどうのきろく

9月25日～10月10日

○9/11 事故原因究明・安全対策委員会；長村副代表をリーダーに、伊藤幹事、久我監事の3名で標記委員会を編成、関係者からの事情聴取などを通じ、徹底的な事故の究明・検証と再発防止対策案の立案を精力的に進め、「9月11日に発生した傷害事故についての究明・対策委員会報告書（案）」が提出された。

10月23日（日）快晴 参加会員18名、吉原先生

○きのこ狩り；コナラを包囲するサクラシメジの大群落に歓声、巨大なコウタケ（香茸）やウラベニホテイシメジなど島は多種多様のきのこで一杯。秋晴れの気持ちよい森で、半日きのこ狩りに興じた。昼食時、サクラシメジはきのこ汁、ウラベニホテイシメジは炭火焼きで試食。（お土産持ち帰りの一夜干しコウタケのお吸物、サクラシメジのおろし和え、納豆和え、佃煮はいずれも美味との報告あり）シイタケ・ナメコなどの栽培きのこは生育遅れのため収穫無し。



(秋晴れときのこに恵まれて)

は赤く色づき秋の色。期待のサルナシ、ミツバアケビは20メートルの高さにあり、採取困難のため試食は断念。

○コナラ更新林調査；03年伐採コナラ林の萌芽と実生の生育調査を行った。

○9/11 事故の現地検証；午前中委員会メンバーによる現地検証を行い、検証結果に従い報告書案を修正。また午後の報告・検討会に先立ち全員で現地検分。

○9/11 事故究明・対策委員会報告及び検討会；長村副代表から報告書（現地検証の結果で修正）に従って報告の後、質疑に続き討論。特に掛かり木回避策、掛り木・掛かれた木の処理、8の字伐採法の問題点、牽引具など道具類、作業編成（役割分担）の問題点、その他の不安全行動、安全マニュアル遵守の必要性、安全マニュアルの問題点、救急対応、救急箱補充、チェーンソー安全作業訓練などの問題に加え、会の実力相応の森の整備、伐採木選定（選木）等について真剣に討議。今後の対応については役員会で具体的に協議する。伐採を伴う森の整備作業は11月も見送り、諸条件を整え12月再開。



(検討会)



(コウタケ)



(コバノガマズミ)



(キヨスミギク)



(ミツバアケビ)



(現地検証)

豊英島のきのこたち

当日は帰路より体調が不良になり、きのこ中毒による嘔吐、下痢かなと思い参加者の皆さんにも迷惑を駆けてしまったのではないかと心配していました。数件のメールで異常ないことを聞き安堵しました。約束のレポートを作成しないと。

天気は晴れ。前日までの雨模様が嘘のように晴れ、今日もきのこは期待できないのではという心配を見事に裏切ってくれました。遅い、早いはあるが確実に季節は巡ってきて、季節の恵みをもたらしてくれるものだなと感じました。

さて、食べられるきのこの復習からいきます。



サクラシメジ

- ・傘 中央部赤褐色、周囲淡い
- 表面は湿っている時粘性
- ・発生状況 菌輪を作る



ウラベニホテイシメジ

- ・傘 茶褐色、吸水性がない
- ・柄 がっしりして中実
- ・発生状況 孤生たまに群生



コウタケ

- ・傘 大きな鱗片をつける
- ・形は朝顔形に開いたじょうご形
- ・傘の裏は針状

以上3種類はコナラなど広葉樹林に発生する。サクラシメジは明るい林の中、ウラベニホテイシメジは少し暗いシイ、カシ林に、コウタケも少し暗い所に発生するような気がする。

●フウセンタケの仲間

柄にクモの巣状の皮膜があり、柄の根元が棍棒形をしている。



オニフウセンタケ



名前はわかりません。



オオウスムラサキフウセンタケ

●私を感じた疑問

7月～9月良く千年の森でもみられたイグチ科、テングタケ科、ベニイグチ科の樹木と相利共生関係にある外生菌根菌のきのこが減ってきたなどの印象を持ちました。本格的な秋を迎え落葉広葉樹が冬の準備のため葉を落とし始めると休眠状態に入り、外生菌根菌の共生の必要性は次第に減って

きているからかな?と思いました。

これからは千年の森のいたるところで菌輪を作っていた薄茶色の小さなきのこ(落葉分解菌)や木材腐朽菌の天下になって行くのかな?と勝手に推論しています。

●面白い形のきのこ、可愛らしいきのこ。



ウスタケ
・ラッパ形
・胞子は脈状のしわヒダに



キンチャワンタケ
・椀形で径2~3cm
・有柄(地中に埋もれている)
・橙黄色



ベニサラタケ
・紅赤色 縁に剛毛
・無柄で皿型



ヒトヨタケの仲間
傘が開くと右の写真のようになります。
・胞子紋 黒色
・腐生菌 植物遺体、糞、焼け跡に発生



●きのこの観察について

千年の森のような孤立して、限られた場所の継続調査は菌類の多様性を知るために重要なことと考えています。毎年少しずつ集積することが出来たら、将来は千年の森を地域のきのこの博物館にとの夢を持っています。

編集より

村野さんの鮮やかなキノコ写真が、容量が大きすぎて送信できませんでしたので止む無く圧縮して再編集してあります。数日中にホームページに村野レポートをそのままアップしますので、秋満開のキノコ写真はそちらでお楽しみください。